

第1回外濠市民塾 実施レポート

日時：6月8日（土）14:00～
場所：法政大学 メルチメディアホール

- 【1】実施概要
- 【2】セミナー
- 【3】まちあるき
- 【4】交流会
- 【5】制作物
- 【6】収支報告
- 【7】アンケート
- 【8】所感並びに反省点
- 【9】次回に向けて

実施要項

日時：6月8日（土）14:00～20:00

場所：法政大学 市谷田町校舎 マルチメディアホール

■ 外濠市民塾プログラム/14:00～18:00

1) セミナー 講師：岡本哲志(法政大学教授)

外濠の誕生を、地形条件や中世期の都市構造、江戸城防衛の観点などから解説した。

2) まちあるき 坂と石垣のまち「市ヶ谷」

「坂」「石垣」「緑」を中心に、外濠周辺(市ヶ谷)に残された歴史の痕跡を7つのグループに分かれて散策した。

■ 交流会/18:00～20:00

プログラム終了後、地域にお住まいの方、企業にお勤めの方、大学教員、学生など様々な立場の方の意見交換の場として交流会を開催した。

参加状況

■ セミナー・まちあるき

参加者：66名（内学生スタッフ16名）

■ 交流会

参加者：46名

スタッフ・協力者

■ 外濠市民塾実行委員会

法政大学：陣内秀信教授、福井恒明教授

高道昌志院生、小松妙子教育技術員、飯田裕磨院生

DNP：亀田和宏、廣田幸司、滝川芳男

■ 協力

法政大学：セミナー講師 岡本哲志教授

説明員 まちあるきサポート：法政大学院生

エコ地域デザイン研究所

DNP：ソーシャルイノベーション研究所

実施要項

開催時間：14:00～14:20 法政大学エコ地域デザイン研究所所長 陣内秀信教授より冒頭挨拶
14:20～14:50 法政大学デザイン工学部 岡本哲志教授 講演
14:50～15:00 休憩
15:00～15:20 まちあるき説明、グループ分け、順次まちあるきに出発 進行：高道院生
司会：滝川（DNP）
場 所：法政大学 市谷田町校舎マルチメディアホール

セミナーの様子



陣内教授 冒頭挨拶



岡本教授 レクチャー



まちあるき出立の様子

セミナー要旨



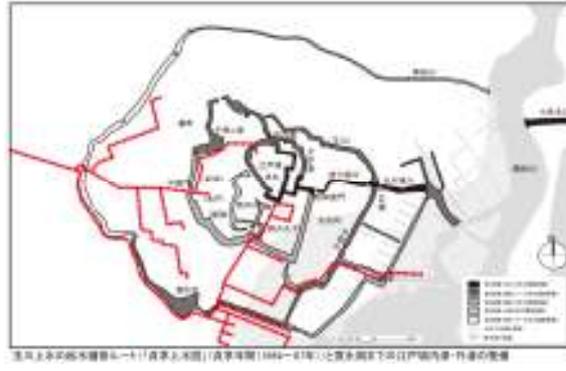
- 縄文時代の関東、現在よりも水位が7~8mほど上昇していた。現在の谷地に当たるところが入江になっている。
- 集落は内陸部から沿岸部に進出してきた、縄文後期に水位が低下すると、神田川周辺は農耕地になったと考えられる。



- 徳川家康が入府した時の都市骨格。太田道灌時代に平川の付け替えが行われて以来大きな土木工事は行われていなかった。
- 東南北は河川や入江が防御となっていたが、西側は武蔵野台地が江戸城までつながり、防衛面での懸念があった。



- 江戸城の整備はまず舟運による資材の運搬を目的に整備された。
- 西側は台地であり事項的な開削や土盛がなされた。
- 江戸城外濠は自然の地形と人口的な土木が計画的に組み合わされている。
- これを見ると当時は現在の内濠が外濠で本丸の周りが内濠であったようにも見える。



- 玉川上水は1654年に完成、四谷大木戸から暗渠となり、江戸城本丸に通じるルートと真田濠、弁慶濠に通じるルートに別れる。
- 大名屋敷への飲料水の確保だけでなく、庭園の池の水などにも利用された。
- 水位調節用の吐水口も設けられ、排出口の真田濠は水濠であった。

実施要項

開催時間：15:00～15:15 まちあるき説明
 15:00～15:30 グループ分け、順次まちあるきに出立
 15:30～18:00 まちあるき
 場所：浄瑠璃坂、モンマルトル風階段、新見附橋、観光専門学校、逢坂、組屋敷、長延寺谷、定火消屋敷
 市谷亀岡八幡、市谷見附橋

グループ構成

ルートno	説明員	サポート1	サポート2	人数(スタッフ含む)
ルート1	蓮見 和紀 (法政大学M1)	詫馬 直人 (法政大学M2)		9
ルート2	小田 夏美 (法政大学M2)	榎本 直生 (法政大学M2)	山口 亜弓 (法政大学B4)	9
ルート3	廣田 幸司 (DNP)	鳶川 亜美 (法政大学M2)	勝見 太貴 (法政大学B4)	8
ルート4	小松 妙子 (法政大学教育技術員)	小笠原 佳奈 (法政大学M1)		10
ルート5	亀田 和宏 (DNP)	奥富 小夏 (法政大学M2)	平山 望 (法政大学M1)	10
ルート6	金谷 匡高 (法政大学D1)	山口 みなみ (法政大学M2)		10
ルート7	飯田 裕磨 (法政大学M1)	越度 倭真 (法政大学M1)		8

まちあるきコース



- 見所スポット
- ・市谷亀岡八幡宮
- ・市ヶ谷見附石垣
- ・新見附橋
- ・観光専門学校
- ・長延寺谷
- ・定火消屋敷
- ・浄瑠璃坂
- ・モンマルトル風階段
- ・逢坂
- ・組屋敷

まちあるきの様子

■ 市ヶ谷亀岡八幡宮

市ヶ谷八幡は太田道灌によって建立され、寛永年間に今の地に移された。この辺りは周辺でもっとも標高の高い場所で、地形を利用しながら遊行の場を形成していった。その賑わいは明治に入っても変わることなく、周辺の屋敷街の住人にとっても普段の散歩道や、縁日に出かけたり外濠地域にとって欠かせない生活の舞台だった。市ヶ谷八幡は外濠という水辺の風光明媚な行楽地であった。



■ 市ヶ谷見附石垣

市ヶ谷見附は江戸城三十六見附のひとつで、最大の魅力は石垣である。この橋に築かれた石垣はほぼ当時のままの姿で現存している。石垣のひとつひとつには紋が彫られているが、これは普請を担当した家臣たちが自らの功績を証明するために刻んだもの。もう一つ注目するのが、その橋が市ヶ谷濠と新見附濠の水位を調整するダムとして機能している点である。自然の地形を利用しながら水を緩やかに調整する優れた治水技術が使われている。幹線道路である靖国通りとして今も使われているところに、外濠の凄みがある。



■ 新見附橋

江戸城には36箇所の見つけがあったと言われているが、新見附橋はその中に含まれていない。新見附橋は明治期につくられた新しい構造物で、見附と言いながら石垣が全く使用されていない見附風の土橋である。城を守るためには極力侵入経路を減らすことが有効であるが、防衛の必要がなくなった時代においてはかえって不都合である。そのため外濠の交通を改善する目的で架けられることになる。



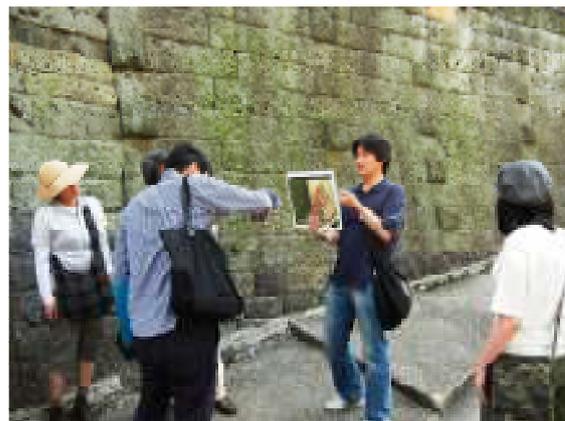
■ 観光専門学校

この場所は西側の高台部分と東側の低地からなる街区の構成を持ち、江戸時代まで別の屋敷地として利用されていた。明治初年政府から下賜された陸軍軍人の谷干城の邸宅が戦前まで建っており、右下図は庭園の池の部分に当たる。明治末ころから段階的に高台部分の土地を取得し、屋敷の母屋を高台に移転、低地部は貸家として利用される。その時の母屋へのアプローチであった階段が敷地内に残され当時の様子を伝えている。



■ 長延寺谷

長延寺谷は外濠に向かって傾斜する丘の一部を側面からえぐり取ったような谷地で、外濠周辺の地形を断面として見られる特徴的な場所である。武家屋敷として開発するために平らな土地を造成する必要がある。明治以降は武家屋敷の庭やお寺の境内などそれまで利用されていなかった土地も住宅のために造成する必要性が出てきた。ここの石垣は下の部分から江戸、明治、大正期のものと推定でき、それらがミルフィーユ状になっている。



■ 定火消屋敷

定火消は明暦の大火の翌年に始まった幕府直轄の火消し集団で、この場所はその屋敷があった場所である。定火消は周囲に眺望のきく高台に設けられる。このような機能的好立地は明治以降の外濠周辺での屋敷開発における理想的条件として引き継がれる。目地の実業家近藤廉平はこの地に倶楽部兼用自邸のチューダー様式の洋館を建設した。各時代での場所の意味や機能が転換されながらも、アプローチや建物の構成、地形との関係といった空間の原理は現在でもよく受け継がれている。



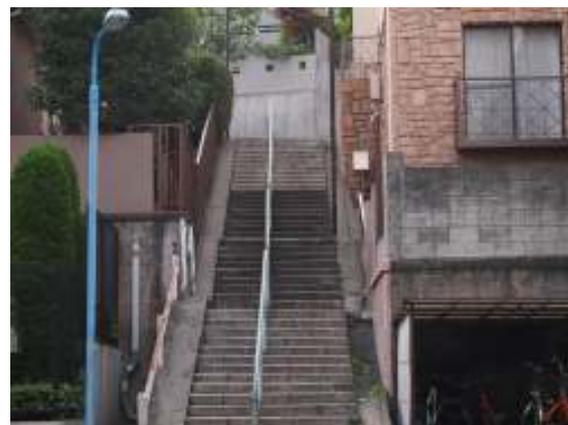
■ 浄瑠璃坂

江戸三大仇討ちの一つ「浄瑠璃坂の仇討」は、この坂上の鷹匠頭 戸田七之助の屋敷で起こった。この坂は他の外濠周辺の坂と異なり、外濠に向かって突き出した台地の尾根部分にあたり、また直線的であることから、開けた印象を与える。江戸から明治、現代に至るまで多くの著名人が屋敷を構え、門扉が連なる様子や緑に囲まれたお屋敷建築の様子は今もほとんど変わらない。



■ モンマルトル風階段

この街区は江戸時代まで斜面地を中心に高台部分と低地部分に二分割されており、南北に長く外濠まで降りていくには大きく迂回しなくてはならない構造を持っていた。自然地形を読み込みながら開発されたこと、防御を考慮して計画されたことがその大きな要因である。明治になり回遊性とか通行が重要視されるようになると、外濠へのショートカットがつくられた。このモンマルトル風階段も明治期に階段を通して外濠へ通じる導線となり、両側に宅地も開発された。



■ 逢坂

自然地形を利用して造成された外濠周辺には、濠に向かって傾斜する坂道が行くつもあり、中でも逢坂は中世から存在する坂道である。この周辺はもともと武家屋敷であり、坂道にそって連なる屋敷から坂下の外濠の水面が垣間見えるという光景が広がり、高台という地形を利用して眺望を楽しむということがかつてはしばしば行われていた。この水と緑の坂道が外濠の住民に普段の道として利用され、いつもその視界には外濠が映っていた。



■ 組屋敷

江戸時代下級武士は役職に応じて細かく組みに別れており、その組ごとにまとまって住んでいた。組屋敷は中央に街路を通しその両側に20~30戸くらいずつの屋敷が並んでいた。それぞれ間口10間前後、奥行20間前後という規格が設けられた、計画的に造成された住宅街である。市谷周辺は台地上であるため起伏が少なく、地形的な条件を考慮して造成されている。この直線が街路であり、少し凹んでいるところは中世の牛込城の空堀の跡と言われている。



実施要項

開催時間：18:00～20:00

場 所：法政大学 市谷田町校舎B1カフェテラス

参加人数：46名（有料 36名、無料 10名）

司会進行：法政大学 デザイン工学部 福井教授

交流会の様子



陣内教授 挨拶



福井会長（神楽坂商店街）乾杯の音頭



福井教授 挨拶



記念撮影

印刷物

- 外濠市民塾紹介リーフレット
 - 仕様：A4版巻3つ折り 用紙:コート 46/90kg
 - 部数：1,000部
 - 用途：外濠市民塾の紹介、設立趣旨、活動概要など



- 外濠市民塾第1回まちあるきガイド
 - 仕様：A4版巻3つ折り 用紙：コピー用紙 上質 46/55kg
 - 部数：オンデマンド、PDFよりカラー出力
 - 用途：第1回まちあるきの手元用ガイドリーフ、まちあるきスポットの紹介



- 外濠市民塾第1回イベント告知チラシ
仕様：A4版 用紙：コピー用紙 上質 46/55kg
部数：オンデマンド、PDFよりカラー出力
用途：イベント告知のばらまき用チラシ



説明用ツール

- 説明用紙芝居
仕様：スケッチブックにA3版カラー出力を弱粘着両面テープで貼り付け
部数：7冊
用途：まちあるきで、説明員が参加に掲示してスポットの説明



- まちあるきコース地図
仕様：A4版 7コース毎に各1種
部数：7枚
用途：まちあるき説明員用にコースのルート説明



Facebook ページ



■ 「外濠市民塾」紹介のためのサイト開設



■ 第1回イベント告知のためのサイト開設

Facebook状況

- 「外濠市民塾」サイトへのアクセス状況
 - いいね 72人：見ている人のタイムラインに表示
 - リーチ 745人：ページを見ている人の一日の延べ人数
- 告知媒体として一定の効果があったとかがえられる。



【6】 収支報告

外濠市民塾 まちあるき懇親会 予算（案）

収入

費目	単価	数量	金額	備考
会費	2,000	36	72,000	

支出

オードブル	37,200	1	37,200	ぐるなび ハピデリ
飲物	24,054	1	24,054	カクヤス
ソフトドリンク、氷	1,324	1	1,324	ファミリーマート
コップ、紙皿	525	1	525	ダイソー
追加ビール、コップ	4,155	1	4,155	ファミリーマート
			67,258	
収支決算			4,742	
第0回キックオフイベント繰越			22,710	
外濠市民塾紹介リーフ印刷費			▲ 6,500	
第1回終了後 残高			20,952	

Q回収：19部

【回答まとめ】

Q:外濠に対するイメージ(従前)

→臭い、緑、魚など、よくも悪くも環境面のイメージが先行。

Q:外濠に対するイメージ(従後)

→縄文からの歴史的連続性、あるいは神田川とのネットワークなど、外濠を東京という広がりの中なかで捉えることができるようになった。

Q:市民塾の良い点、改善点

→10人編成はちょうど良い。紙芝居方式も良い。

紙芝居を配ってほしかった。

名札をつけて歩くのは気恥ずかしい。腕章やバッジが良いのでは。

説明者が質問に答えられない。事前打ち合わせを徹底。

トランシーバの音が小さい。

セミナーをもっと聞きたかった。

Q:実行してほしい企画

→同じような内容で内堀も聞いてみたい。

外濠沿いの公園群が面白そう。

まちあるきの後で、「まとめ」解説があっても良いのでは。

生態系についてのセミナーが聞きたい。

外濠クイズ、外濠の写真展

反省点

- 全体を通して
 - ・第1回目としてはまずまずの成功
 - ・もっと多くのステークホルダに参加してもらおう工夫が必要
企業、地域住民
 - ・東京理大が参加してくれたのは良かった
- セミナー
 - ・備品の管理や引き継ぎで、役割を明確にする
カメラ、AV機器、配布資料など
 - ・まちあるきとの相関性をもっと持たせたほうがいい
 - ・質疑応答の時間があつたほうがいい
- まちあるき
 - ・紙芝居方式は概ね高評価
 - ・説明文はポイントを絞って3点ぐらいの方がわかりやすい
 - ・説明員スタッフの事前の勉強不足
 - ・説明員が説明できない分、参加者が説明をしてその場でコミュニケーションが出来た
- 広報・広告
 - ・リーフレットの発刊がもっと早ければ
 - ・イベント告知用のチラシは有効であった 印刷物も必要
 - ・Facebookと口コミを組み合わせると効果が高い
- その他
 - ・アンケートの回収方法をきちんと決めておく
 - ・預かり荷物の管理、クローク必要？

次回に向けて

- 日時：9月8日（日）14:00～
場所：法政大学 詳細未定
- 検討事項
 - ・法政大学ポアゾナードタワーから外濠を眺めるような企画
 - ・暑い時期につき、まちあるきは短く、WSなどと組み合わせる
 - ・企業と地元の人との巻き込み方 ⇒ もっと巻き込んだほうが良い
 - ・行政への対応 ⇒ 千代田区、新宿区の広報に掲載してもらう
 - ・懇親会をもっと簡略に ⇒ 会費1,000円程度、行きたい人はその後で